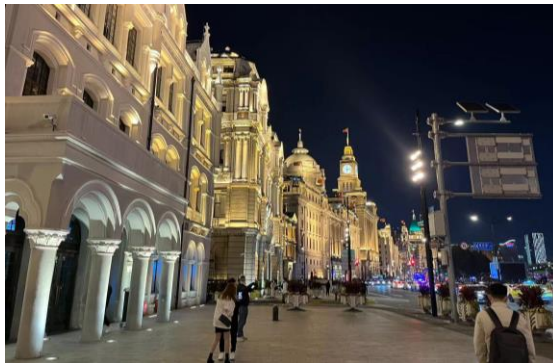


“魔都”と呼ばれる理由は??

ロックダウン真ただ中の上海浦東国際空港に降り立ってから、早くも3年が経とうとしている。筆者の上海駐在も間もなく終わりを迎える。上海と聞くと、“魔都”という言葉を連想する人が多いかもしれない。世界三大魔都（注）の一つとされている上海。今回は駐在の締めくくりとして、筆者なりに考えた、上海が“魔都”と呼ばれる理由などを徒然なるままに書いてみたい。

“魔都”…この言葉が使われるようになったのは、日本人作家「村松梢風」（1889年-1961年）が上海を舞台とした作品『魔都』を発表してからとのこと。1923年、上海に渡航した村松梢風はその魅力の虜になり滞在する。滞在中に得た見聞をもとに発表したのが『魔都』である。



歩いているだけでも感じる熱気とパワー。街全体にあふれるエネルギーのようなものがとにかく強いのだ。最初の頃はこれらを受け止められなく、疲れ果てていたように思う。しかし、この疲労感がダメージになっているかという決してそうではない。なんとなく気分が高揚しているというか、ワクワクしているというか、そんな感覚なのだ。まさに“不思議な力”の作用としか思えない。



では“魔都”という言葉にはどんな意味があるのだろうか。ネットで検索すると、「不思議な力で人を迷わせる都市」とあった。

「不思議な力で人を迷わせる都市」…この一文を見た瞬間、「まさにその通り！」と大きくうなずいてしまった。



近代的な高層オフィスビルのすぐ近くには昔からのアパートや民家が密集して建ち並ぶ。旧フランス租界ではプラタナスの並木道や洋館・レンガ造りの民家。さらに、かつて「東洋のウォール街」と呼ばれた外灘（バンド）には、重厚な石造りの西洋建築群が光り輝く。このようなごちゃ混ぜの街並みが「他にも何かありそう！！」と、人々の好奇心を掻き立て、そして、“迷わせる”のだ。

人気商品や話題のスポットなど、日々更新される流行情報。上海という街が発する魅力とエネルギーに吸い寄せられるように、世界各地から人、商品、お金が集まってくる。そして、それらが新たな進化を生み出す。

駐在期間を振り返ってみると、退屈を感じたことがなかった。筆者もまた、上海の魅力に取り憑かれた人間の一人である。駐在期間は間もなく終わりを迎えるが、またいつか必ず、新たな進化をとげた“魔都”をこの目で見たいと思っている。（我一定會再回来的！）

街の喧騒と熱気に包まれながらも、ホッとする瞬間があった。それは、上海人の笑顔を見たときである。上海人が時折り見せる笑顔。思わず「かわいらしい！！」と惹きつけられてしまう魔力的な笑顔をもた、”魔都”の所以の一つなのかもしれない。

（注）世界三大魔都…諸説あるようだが、上海（中国）、京都（日本）、ロンドン（イギリス）が世界三大魔都とされている。

